

小中一貫教育の授業づくりを手立てとする
主体的に学習に取り組む児童の育成
藤岡市立藤岡第二小学校 校長 大塚 崇

ティ・本校では、藤岡市の方針を受け、コミュニティ
 より児童の学力向上を目指し、主体的に学
 習に取り組む児童の育成に取り組んでいま
 す。北中学校、貫校（以下北一貫校）では北
 連携型小中一貫校（以下北一貫校）で
 目標として、未来を生きる力を育む自律・共
 のもと、心ゆたかに子ども像の徴として「
 掲示し、心ゆたかに子ども像の徴として「
 一つ、小・中・高の教育活動と児童生徒、保
 の一つ、小・中・高の教育活動と児童生徒、保
 実践の概要と成果、課題等を報告します。

一 小中一貫教育の授業づくりとは
 (一) 学びのつながりをふまえて

北一貫校の授業スタンダードは、「これまでで」（既習事項や体験など問題解決のための手がかりとなるもの）「ここでは」（ここで学ぶ価値や意義を明確にするために今日やることを端的に示すもの）「このあとには」（単元の終末やねらいに迫る学習のゴールを意識させ見通しをもたせるもの）という、学びのつながりをふまえた授業の流れをとります。また、児童の思考のヒントとして、既習の学習をきっかけに、これまでの日常生活と関連させて考えたり、これまでの学びの共通点や相違点を明らかにして考えたりできるような、それらをつなぐ「つなぎ教材」を用意します。「つなぎ教材」は本時の学習につながり既習事項（ノート、掲示物、教科書等）やワークシート、教師の言葉、他の児童の発言、教具、図工の作品見本などを指します。

(二)やる気の生徒指導をふまえて
授業中に生徒指導実践上の4視点を生かし、積極的な生徒指導を意図的・計画的に行い、児童の学習意欲を引き出し継続させます。意欲は一度もたせればその後も続くというものでなく、意欲を高める手立てを繰り返していく必要があります。手立てとしては、特にネットムプレート(名札)を黒板に掲示し、自己決定や自己存在感などを可視化します。なお、北一貫校の教育方針は、A3版のリーフレット「図1」を作成し、保護者や地域に配布し、共通理解を図っています。

的前決り分
にが定ゝの図
音黒す音好4
読板る読きは
すにこすな2
るあとの場年
こるで授面生
とこゝ業を国
がとやで選語
でるすびゝ
き自気ゝス
ま己が音ネイ
し存高読ミ
在ますム
。感るプ
をゝ場レの
得自面学
ゝ分をト習
意の自をで
欲名己貼自



図 4 2 年生国語
○がネームプレート

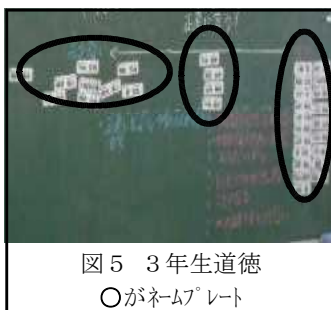


図 5 3 年生道徳
○がネームプレート

(二)体的の材板図
ネに提と書3
一学示しには
ム習ゝてゝ4
プをこい単年
レ進のま元生
一め後すの国
トてのゝ学語
い学本習一
習時計聞
をの画き
。童置掲り
がづ示メ
見けしモ
通ゝゝの
し既つ工
て習な夫
主事ぎ一



図 2 特支 1 年生国語
○がつなぎ教材

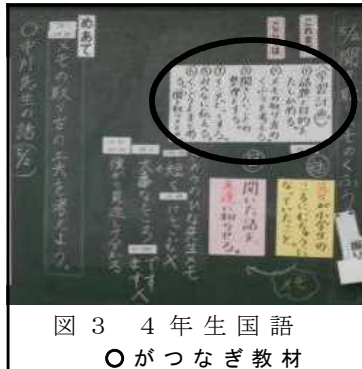


図 3 4 年生国語
○がつなぎ教材

行の指 (二)そ見に業興
錯で導図一)のい意の味主
誤児で2一)手だ欲めや体的
し童ホはつ立そのあ関的
なはワ知なてうにて心に
が納イ的ぎとと取なを学
ら得ト特教ししりども習
主すボ別材てて組かちに
体る一)支一)次いみらゝ取
的まド援のゝるゝ見自り
にでを学活3児粘通分組
学書用級用点童りしでむ
習いい1をと強を課児
をたゝ年例捉くも題童
行り容生のえ自つをと見は
い消易の挙て分て見ゝ
ましにひげいの課つゝ
した消らまま考題け学
たりせがすすえ解ゝ習
。試るな。ゝを決授に



図 1 一貫校リーフレット

※ 拡大版は
本校 H P へ



A group of students in white shirts and maroon skirts are gathered around a table, working on a large project. They are looking at a large sheet of paper with a diagram or map on it. The classroom background shows other students and posters on the wall.

图 6 6 年生社会

図5は3年生道徳「千羽づる」で、心を込めて折れなかったことを正直に言える(右)と言えない(左)迷う(中央)かを表明し、児童は自分事として考え、その後の話し合いで変容を見取ることに活用しました。